

# 国語科の資質・能力の育成や意識の醸成に寄与する学校での学習活動に関するデータ分析・検討業務委託

プロジェクト報告書 概要版

2026年3月



## 対象データ: 学力・学習状況調査、アンケート、電子書籍データ

対象小学校数

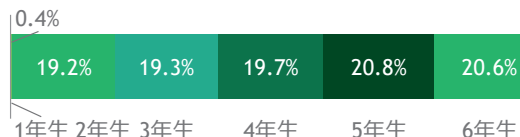
対象児童数

学年の分布

横浜市学力・  
学習状況  
調査結果データ  
(2025年4月)



読書に関する  
アンケート調査  
(2025年7月)



電子書籍  
サービスデータ  
(2025年9-11月)

(9月の例)



## 分析結果サマリ

### テーマ① 読書と学力の関係

量: 閲覧冊数が多いほど、横浜市学力・学習状況調査の国語科の正答数が高い傾向

### テーマ② 読書と社会情動的コンピテンシー (共感性) の関係

量: 閲覧冊数が多いほど、共感性が高い傾向

### テーマ③ 読書量を高めるための動機・時間・環境

動機: 低学年では動機による差は見られないが、高学年は自発的な動機があるほど、閲覧冊数も多い傾向

時間: 放課後の電子書籍利用率は10%未満。端末の持ち帰り許可等で読書量を伸ばせる余地あり

環境: 電子書籍では文学・絵本といったジャンルの閲覧数が多く、偏りあり。閲覧が少ないジャンルは、学校図書館/紙の書籍で補えうる

出所: ポストン コンサルティング グループ分析



3

### テーマ① 読書と学力の関係サマリ

紙・電子書籍含む全体の閲覧冊数が多いほど、学年に関係なく、横浜市学力・学習状況調査の国語科の正答数が高い傾向にある (但し、全体の相関係数としては低い)

出所: ポストン コンサルティング グループ分析

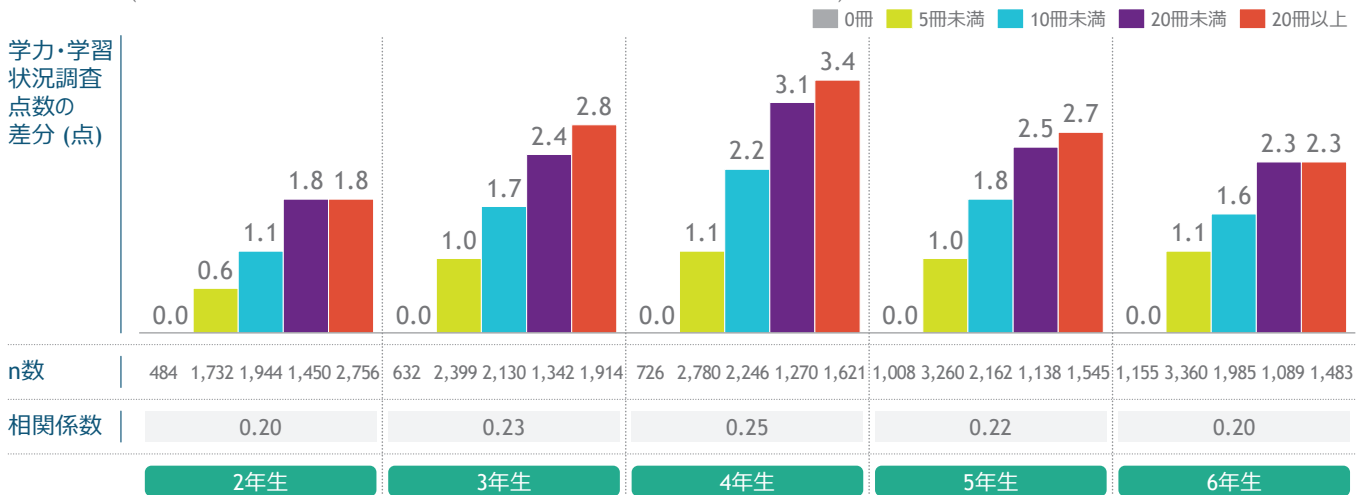
4

閲覧冊数が多いほど、学年に関係なく、横浜市学力・学習状況調査の国語科の正答数が高い傾向にある。但し、全体の相関係数としては低い

紙・電子全体の読書量×学力

紙・電子書籍含む全体の閲覧冊数と学年ごとの横浜市学力・学習状況調査の国語科の正答数の平均値

(電子書籍の閲覧冊数が0冊の児童の点数を基準としたときの、点数の差分を示す)



出所: ポスト コンサルティング グループ分析

5

## テーマ② 読書と社会情動的コンピテンシー (共感性) の関係

紙・電子書籍含む全体の閲覧冊数が多いほど、  
学年に関係なく、共感性が高い傾向にある



出所: ポスト コンサルティング グループ分析

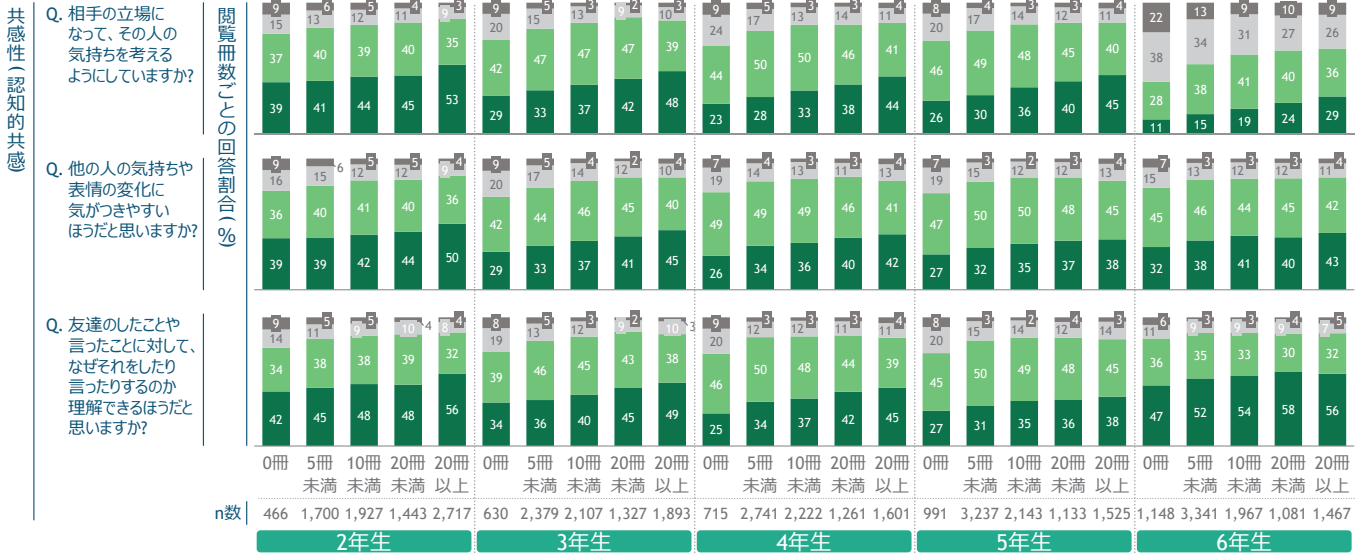
6

## 閲覧冊数が多いほど、学年に関係なく、認知的共感性は緩やかに高い傾向にある

紙・電子全体の読書量×社会情動的コンピテンシー (1/2)

紙・電子含む全体の閲覧冊数と意識調査の回答割合

■ あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまらない ■ あてはまらない



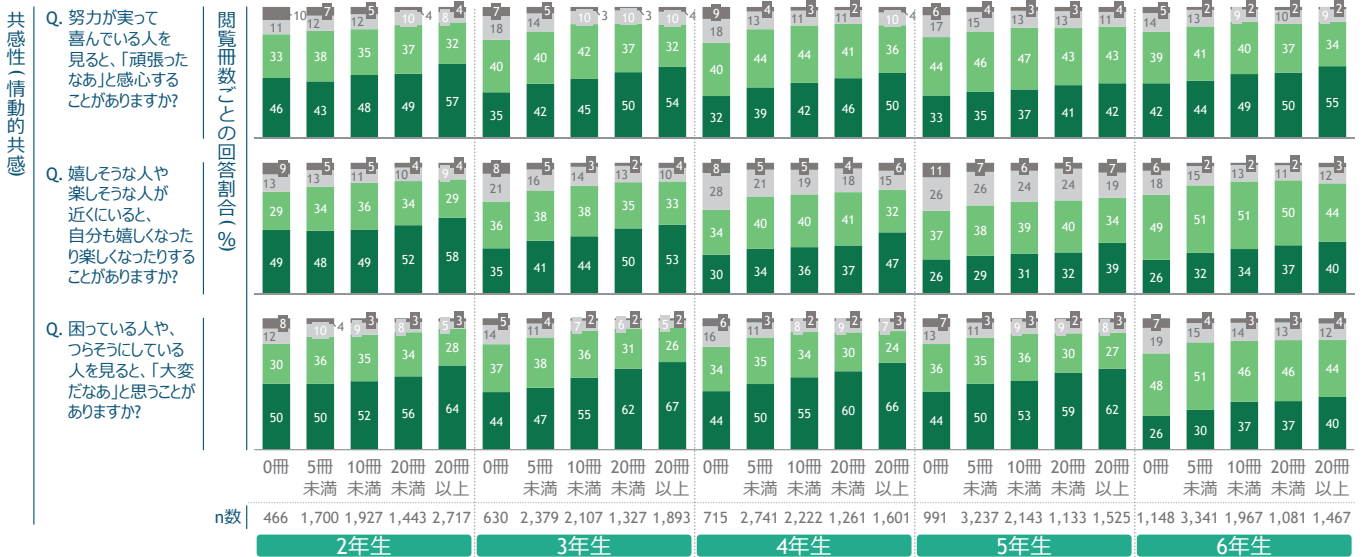
出所: ポストン コンサルティング グループ分析

## 閲覧冊数が多いほど、学年に関係なく、情動的共感性は緩やかに高い傾向にある

紙・電子全体の読書量×社会情動的コンピテンシー (2/2)

紙・電子含む全体の閲覧冊数と意識調査の回答割合

■ あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまる ■ どちらかといえば、あてはまらない ■ あてはまらない



出所: ポストン コンサルティング グループ分析

# テーマ③ 読書量を高めるための動機・時間・環境



- 動機:** 低学年では動機による差は見られないが、高学年は自発的な動機があるほど、閲覧冊数も多い傾向
- 時間:** 放課後の電子書籍利用率は10%未満。端末の持ち帰り許可等で読書量を伸ばせる余地あり
- 環境:** 電子書籍では文学・絵本といったジャンルの閲覧数が多く、偏りあり。閲覧が少ないジャンルは、学校図書館/紙の書籍で補える

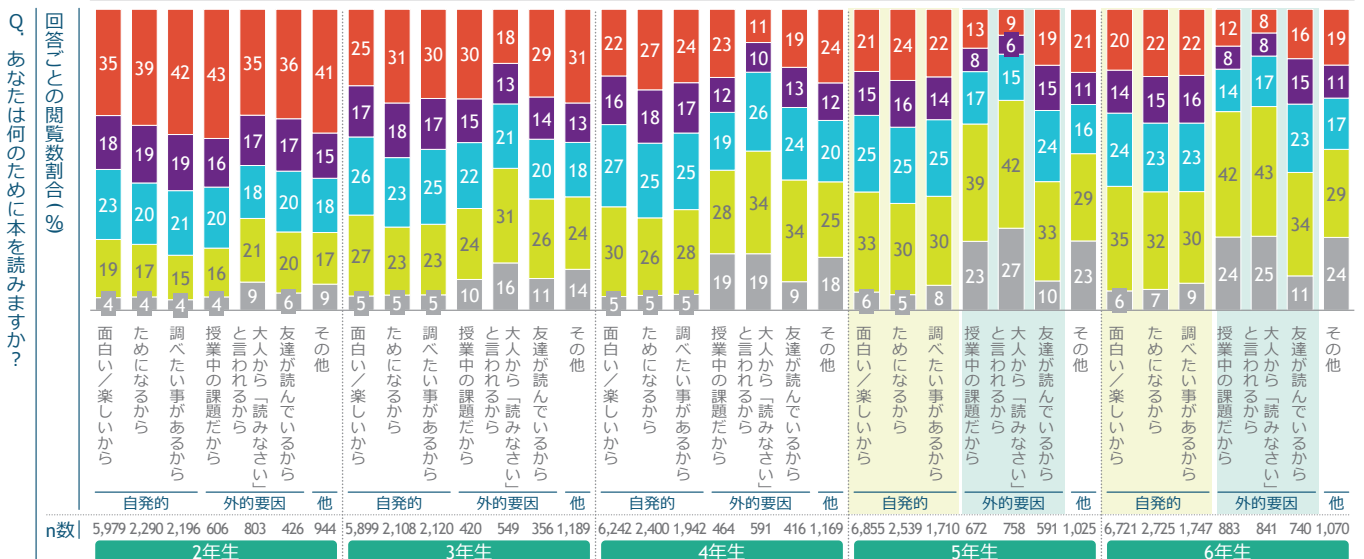
出所: ポストン コンサルティング グループ分析

## 読書の動機と閲覧冊数の関係を見ると、低学年では差は見られないが、高学年になると自発的な動機がある児童の方が閲覧冊数が多い傾向にある

紙・電子全体の読書量 x 読書の動機

紙・電子含む全体の閲覧冊数と意識調査の回答割合

0冊 5冊未満 10冊未満 20冊未満 20冊以上



出所: ポストン コンサルティング グループ分析

朝 (8時台) は50%程度が月1冊以上読んでいる一方、放課後の時間帯は10%未満。  
放課後については端末の持ち帰り許可等で読書量を伸ばせる余地が存在

電子書籍の読書傾向

時間帯別の1冊以上閲覧した児童の割合 (%)

|     | 朝読書 |    | 中休み |     |     | 昼休み |     |     | 放課後 |     |     |     |     |     |
|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 7時  | 8時 | 9時  | 10時 | 11時 | 12時 | 13時 | 14時 | 15時 | 16時 | 17時 | 18時 | 19時 | 20時 |
| 全体  | 4   | 50 | 46  | 44  | 46  | 32  | 35  | 32  | 9   | 6   | 7   | 7   | 7   | 7   |
| 月別  |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 9月  | 4   | 51 | 48  | 48  | 49  | 36  | 40  | 35  | 10  | 6   | 6   | 7   | 7   | 7   |
| 10月 | 4   | 50 | 47  | 46  | 46  | 32  | 36  | 32  | 10  | 6   | 7   | 8   | 8   | 8   |
| 11月 | 3   | 48 | 42  | 39  | 43  | 28  | 31  | 30  | 8   | 6   | 6   | 7   | 7   | 6   |
| 学年別 |     |    |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
| 1年生 | 1   | 32 | 35  | 34  | 37  | 24  | 22  | 17  | 2   | 2   | 3   | 3   | 3   | 3   |
| 2年生 | 3   | 49 | 49  | 48  | 51  | 36  | 36  | 30  | 6   | 6   | 7   | 8   | 8   | 7   |
| 3年生 | 4   | 54 | 54  | 52  | 53  | 38  | 42  | 38  | 10  | 7   | 8   | 9   | 9   | 8   |
| 4年生 | 4   | 56 | 50  | 48  | 49  | 35  | 40  | 40  | 13  | 7   | 8   | 9   | 9   | 8   |
| 5年生 | 5   | 53 | 46  | 43  | 45  | 31  | 37  | 36  | 12  | 7   | 7   | 8   | 8   | 8   |
| 6年生 | 4   | 51 | 41  | 39  | 40  | 28  | 33  | 31  | 10  | 6   | 6   | 7   | 7   | 7   |

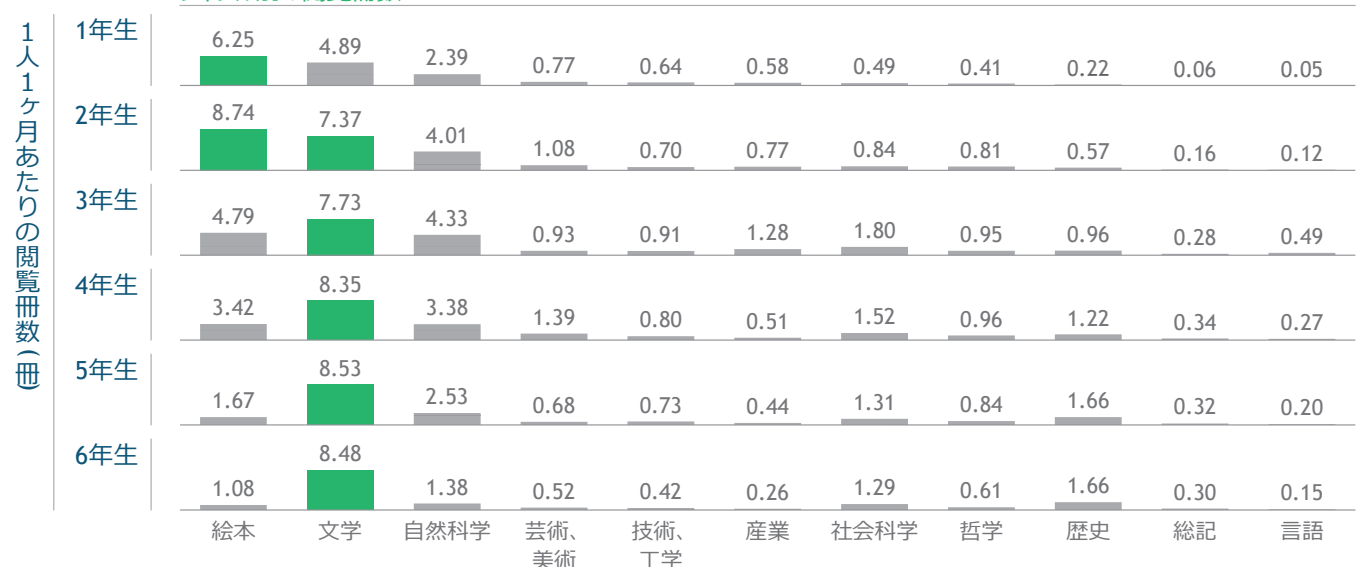
※ 全体、学年別に関しては、9~11月それぞれで割合を算出した後にその平均を表示  
※ 6時まで、21時以降は閲覧冊数の割合が小さいため表から省略  
出所: ポストン コンサルティング グループ分析

電子書籍では文学・絵本といったジャンルの閲覧数が多く、偏りがある。閲覧が少ないジャンルは、学校図書館/紙の書籍で補える可能性あり

電子書籍の読書傾向

ジャンル別の閲覧冊数

■ : 5冊以上



出所: ポストン コンサルティング グループ分析

# 分析結果サマリ

## テーマ① 読書と学力の関係

量: 閲覧冊数が多いほど、横浜市学力・学習状況調査の国語科の正答数が高い傾向

## テーマ② 読書と社会情動的コンピテンシー (共感性) の関係

量: 閲覧冊数が多いほど、共感性が高い傾向

## テーマ③ 読書量を高めるための動機・時間・環境

動機: 低学年では動機による差は見られないが、高学年は自発的な動機があるほど、閲覧冊数も多い傾向

時間: 放課後の電子書籍利用率は10%未満。端末の持ち帰り許可等で読書量を伸ばせる余地あり

環境: 電子書籍では文学・絵本といったジャンルの閲覧数が多く、偏りあり。閲覧が少ないジャンルは、学校図書館/紙の書籍で補える

**読書量を増やすことが重要**

端末の持ち帰りに加えて、特に高学年には、自発的な読書に繋がるよう、**興味関心にあつた選書支援等を推進していく必要がある**

出所: ポストン コンサルティング グループ分析

13

## 分析前提と留意点: 現時点では因果の分析はできず、分析アプローチと相関の提示としてご理解いただきたい



今年度は、横浜市学力・学習状況調査後に、読書に関するアンケート調査や電子書籍利用データを取得。そのため、結果の因果関係まで踏み込めず、あくまで相関として捉える

2025年4月

横浜市学力・  
学習状況調査

2025年7月

読書に関する  
アンケート調査

2025年9月-

電子書籍利用  
データ

出所: ポストン コンサルティング グループ分析

14

# 共創の仕組みを生かし、読書で探る 教育のカたち

## インプットデータの 多様化

児童・児童の本の読み方

教員による読書指導の仕方

向上させたい能力の定義・測定

⋮



## アクションに繋がる アウトプット

学年ごとの指導改善

書籍・教材ラインナップの最適化

読書推進施策への示唆

⋮

出所: ポストン コンサルティング グループ分析

15

## Disclaimer

The services and materials provided by Boston Consulting Group (BCG) are subject to BCG's Standard Terms (a copy of which is available upon request) or such other agreement as may have been previously executed by BCG. BCG does not provide legal, accounting, or tax advice. The Client is responsible for obtaining independent advice concerning these matters. This advice may affect the guidance given by BCG. Further, BCG has made no undertaking to update these materials after the date hereof, notwithstanding that such information may become outdated or inaccurate.

The materials contained in this presentation are designed for the sole use by the board of directors or senior management of the Client and solely for the limited purposes described in the presentation. The materials shall not be copied or given to any person or entity other than the Client ("Third Party") without the prior written consent of BCG. These materials serve only as the focus for discussion; they are incomplete without the accompanying oral commentary and may not be relied on as a stand-alone document. Further, Third Parties may not, and it is unreasonable for any Third Party to, rely on these materials for any purpose whatsoever. To the fullest extent permitted by law (and except to the extent otherwise agreed in a signed writing by BCG), BCG shall have no liability whatsoever to any Third Party, and any Third Party hereby waives any rights and claims it may have at any time against BCG with regard to the services, this presentation, or other materials, including the accuracy or completeness thereof. Receipt and review of this document shall be deemed agreement with and consideration for the foregoing.

BCG does not provide fairness opinions or valuations of market transactions, and these materials should not be relied on or construed as such. Further, the financial evaluations, projected market and financial information, and conclusions contained in these materials are based upon standard valuation methodologies, are not definitive forecasts, and are not guaranteed by BCG. BCG has used public and/or confidential data and assumptions provided to BCG by the Client. BCG has not independently verified the data and assumptions used in these analyses. Changes in the underlying data or operating assumptions will clearly impact the analyses and conclusions.

16

The image features a green rectangular overlay on a background of a bookshelf. The BCG logo is prominently displayed in white, with the letters 'BCG' in a bold, sans-serif font. To the right of the logo, the words 'BOSTON CONSULTING GROUP' are written in a smaller, all-caps, sans-serif font, stacked vertically.

**BCG** BOSTON  
CONSULTING  
GROUP

[bcg.com](http://bcg.com)